



## 日本とイラン

シルクロードを通じて日本に運ばれたペルシャ絨毯は珍重され、豊臣秀吉が陣羽織に仕立て直したことも知られる。その絨毯を中心に日本とイランの文化的つながりを再確認しようという「ペルシャ絨毯と文化展」が今月、東京のイラン大使館で開かれた。両国が国交を結んで80年になることから企画された。

### 絨毯で考える文化的恩恵

花や動物など伝統的なモチーフを織り込んだ精巧な近現代作品約100点が展示され、来場者は文様の象徴する意味などの解説に耳を傾けた。伝統音楽やイラン映画も紹介された。

20日はアジア民族造形文化研究所(横浜市)の金子量重所長が講演。正倉院の宝物と現代の日本やイランの生活用具の造形がよく似ていることを示しながら、「日本

文化はアジア、特にペルシャから恩恵を受けてきた。欧米的な価値観が金融危機を招いた今こそ、手を結んで新しい時代を築いていくべきだ」と語った。

会期中、イランの暦で正月(ノウルーズ)に当たる春分の日を迎え、鏡やリング、色づけされた卵などイラン式正月飾りも並べられた。写真。中東社会で大きな影響力を持つイランは日本から「遠い」印象もあるが、春らしい雰囲気の中で、来場者は意外な「近さ」を感じていたようだった。

文化ことばのページ